



# 笑顔の ひろば

vol. **24**

新年号

発行

2014年1月25日  
川崎協同病院広報委員会  
川崎市川崎区桜本 2-1-5  
TEL:044-299-4781(代)  
FAX:044-299-4788

<http://kawasaki-kyodo.hosp.jp>

## 長期計画を見直し、 夢をもって積極的に

## 田中院長に 今年の抱負を聞く

新たな年を迎え、川崎協同病院では時代にあった病院づくりをより進めていきます。新たなMRI機器が導入され3人の研修医も迎え入れます。田中久善院長に今年の抱負と今後の展望を聞きました。

聞き手は看護学生担当事務で広報委員でもある平舘浩美です。

### ～時代に求められる医療を実践～

今年は医療界にとって、また川崎協同病院にとってどのようなことが課題となるのでしょうか。

**田中：** 当院としては、今年の大きな課題の一つに長期計画の見直しがあります。2025年には日本の少子高齢化がピークとなり、人口減少社会を迎えると言われています。高齢者のうち、3分の1が独居になるとの推計も出ています。外来・入院の患者様の高齢化が進行するのに伴って認知症などの増加が見込まれ、疾病の種類も変化しますので、今以上に在宅ケアが重要になってきます。このような世の中の

変化に、病院としてどう対応していくかが問われていると考えています。

2025年といえばあと11年、あっという間ですね。

**田中：** ええ。病院で患者さんを待っていれば済む時代ではなくなります。往診もさらに精力的に取り組んでいくことが求められます。現在も協同ふじさきクリニックでは往診を行っていますが、病院とクリニックの連携をさらに深めていく必要があります。また病院のリニューアルも長期計画の大きな課題です。病室の構造を高齢者の入院環境に見合ったように整えていく必要もありますし、高齢者の入院にも対応できる医師体制づくりも大切な課題です。

なるほど、時代に求められる医療を考慮してわたしたちの独自性を出していくわけですね。そういえば、今年は3人の初期研修医を受け入れる予定ですが、どんなことを期待されますか。

**田中：** 当院は基幹型臨床研修指定病院として3の初期研修枠がありますが、初期研修定員いっぱいの3人を迎えるのは3年ぶりです。やはり若い人のパワーや意欲にはわたしたちベテランも大いに刺激を受けますね。ここ数年で初期研修を済ませた若手医師たちは本当に頼もしく育ってくれています。彼らは朝の時間を使って自主的な勉強会を行ったりしているのです。今年の3人も先輩方の背中を見て自分を磨いていってほしいです。

次ページに続く



## 田中院長に 今年の抱負を聞く

～週に4、5日はランニングで気分転換～

お話をうかがっていると、院長は通常の診療のほかにも、病院の長期的な展望も考えるなど何役かを担っていらっしゃるようですが、そんな毎日のなかでどんな風に気分転換をされているのですか。

**田中：**私の場合はなんといってもランニングですね。

確かに院長のマラソン熱は院内でも有名ですね。ランナー歴は長いのですか。



**田中：**今年で走り始めてから7年です。初めは、何かお腹まわりがきつくなってきて、検診の数値もかんばしくない。まずいなあと始めてんです。ランニングは、シューズだけあればとりあえず始められるでしょ。手軽だなと思って。

院長、急に饒舌になりましたね（笑）。なにか目標があるのですか。

**田中：**今も週に4、5日は走っていますが、実は、今度八ヶ岳で71キロマラソンというのがあって、密かに出ようと思っています。ゆくゆくはサロマ湖100キロマラソンに出るのが夢です。

71キロですか?! 想像を絶する世界ですね。それに挑戦するパワーが仕事にも反映されるのですね。

**田中：**そう遠くないうちに病院のリニューアルなどもやってきます。大局を見極め、職員一丸となってより地域のみなさんに愛される川崎協同病院を目指して頑張ります。地域の医療機関や介護施設の皆様、組合員や患者の皆様、本年もよろしくお願い致します。

田中院長、ありがとうございました。



今後の展望を見据えて語る田中院長

将来は明るいですね。

**田中：**ええ。私も慌ただしい毎日ですが、夢を持って業務に取り組んでいます。今年はMRI機器も新しくなります。従来の機種より数段精度があがり、今までだと見つらかった四肢の動脈なども鮮明に映ります。肝臓、胆のう、膵臓の疾患や乳がんの検出精度が高まります。しかし高額な機器で、大きな投資になります。当院は地域の皆さんに支えられてできた病院ですし、今回の機器のリニューアルについてもその利点を十分ご理解いただいた上で増資を呼び掛けていきたいと思っています。

また、職員にも改めて増資を呼び掛けていきます。この機会に職員一人ひとりが川崎協同病院を支えていくという意識をより強くしてもらいたいですね。



川崎医療生協ピースランで走る田中院長

## 音楽に触れる時間が 心豊かな医師の姿勢をつくる

川崎協同病院 小児科 後期研修医 能城 一矢 のぎ かずや

川崎協同病院医師の能城です。2年間の初期研修と1年間の内科研修を経て、現在は小児科の後期研修中です。

私は趣味でオーボエを演奏しています。オーボエとはヨーロッパで生まれた木管楽器で、オーケストラの中



医局でカンファレンスにのぞむ能城医師

ではフルートと並んで高音域を担当する楽器です。独特の音色が愛され、チャイコフスキーのバレエ音楽「白鳥の湖」などオーボエが活躍する曲が数多くあります。

オーボエの演奏はとても難しく、「世界で最も演奏が難しい木管楽器」としてギネス世界記録に載ったほどです。美しい音色を奏するためにはストイックな努力が必要で仕事との両立はなかなか難しいですが、音楽に触れる時間は忘我の喜びをもたらしてくれます。

オーボエを吹いていたから今の私があり、医師としての姿勢にも大きな影響を与えています。これからも演奏活動を続け、それを通して心豊かな人になりたいと思います。



自身の結婚披露宴でも演奏

## 大地震の経験から、透析患者の避難を考える ～血液浄化センター災害対策の取り組み～

あくしょん  
action

血液浄化センターでは、1996年から透析患者さんの避難訓練を実施しています。当初は、患者さん自身が透析回路をハサミで切って非常口まで避難するというものでした。しかし、2003年の中越沖地震の経験を教訓として、2005年からは、透析中に地震が発生したらどんな行動をとればいいのかを、患者さんがイメージしやすいようにと避難訓練を変更しました。



災害時の行動がひと目でわかる“アクションカード”  
すぐに手にとれるよう、目立つ場所に掛けてあります。

地震の揺れが落ち着いたら、スタッフが患者さんの針を抜きバンドで固定しながら、6階の透析室から1階まで避難します。階段を下りることが出来ない患者さんが多いことに驚きました。

2011年には東日本大震災が起きました。揺れが激しい時は、立っていることもままならず、職員も自分の安全を確保する事しかできないと実感しました。計画停電のために透析時間を変更したり、工場が被害にあったために透析に必要な物品が不足することもありました。茨城や福島への避難患者さんの受け入れもしました。

この経験を生かし、2013年からはアクションカード（左の写真）を用いて月に1～2回スタッフ訓練を行っています。患者さんにはしおりを配付し、災害時の行動を啓蒙し、家族みんなで災害について考えるように呼びかけています。また、災害用伝言ダイヤル171の体験訓練も行い、患者さんが困らないよう患者会とも連携をとっています。

このように大きな地震の経験をいかし、透析患者さんが安全で安心できる透析医療・災害対策とは何かを常に考えてきました。これからも、日々学習し災害対策に対し高い意識を保ち続けていくよう努めます。

血液浄化センター 長島 玲子



# ひとり一人の希望により添った対応を 食べる楽しみを明るく演出

## グループホーム秋桜の里



住宅街にとけ込む佇まい

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。第4回は「グループホーム秋桜の里」を紹介します。

(取材：地域連携室 小森千絵、高橋靖明)

グループホーム秋桜の里は、川崎区でも横浜市鶴見区に近い臨海部の住宅街の一角にあります。2階建ての1階は賃貸アパート、2階が9人1ユニットの認知症高齢者グループホームになっています。

昨年12月におじゃましたときは、玄関にはクリスマスの飾りがあり、2階に上がるとキッチンとみんなが集うスペースがあって、そこに入居者の方々が出てきては、お茶をしながら楽しそうに談笑していました。ごはんまりとしていて、自宅にいるような家庭的な雰囲気が伝わってきました。現在の入居者は、9人全員が女性で認知症状が重い方も何人かいらっしゃいます。

ホームでは、方針として入居者ひとり一人の希望により添った対応を心掛けているそうです。たとえば「ディズニーに行きたい」「外食に行きたい」といった希望があがると、みんなで参加できるようスタッフで企画を立て実現しています。

季節にあった行事にも力を入れていて、お正月に始まり、七草粥、節分にお花見と、年間を通してさまざまな行事を行っています。そのほか一泊旅行やお誕生日会の開催など日々の暮らしに変化と彩りをつけ、楽しみをつくることで、喜んでもらっています。



「チョコ食べる人〜?」「はい!!」

なかでも力を入れているのは食事で、病状や栄養管理に配慮しながらも、食べる楽しみを大事にした献立や企画がされています。利用者と一緒に買い物に行き、試食しながら食材を選び、一緒に皮むきや味付けといった調理も行っていきます。

ちょっと味見が多すぎてスタッフが戸惑うこともありますが、餃子パーティーや流しそうめんといった企画も好評で、クリスマスにはみんなの希望でワインも出ました。スタッフが入居者のみなさんに「今日何食べたい?」と聞くと「バーベキュー」「サラダ」といった声が聞こえ、とても和やかな雰囲気が伝わってきました。

ホーム管理者の伴菜穂子さんは、スタッフに対して、自分達の困ったことの解決や自己満足のためではなく、入居者が常に中心にある支援を心掛けるようにし、できるだけやりたいことを責任をもって任せるようにしているそうです。そのことが、入居者を尊重した支援につながっているのだと実感しました。

### ●協同病院へひとこと・・・

京町診療所（川崎医療生協）から訪問診療に来ていただけてますが、先生も看護師さんも利用者さんをそれぞれ個別にとらえ、その人の将来のことも見すえて対応してくれるのでありがたく思っています。川崎協同病院とも、入退院時も連携が取れて助かっています。

### ●おじゃまして・・・

管理者をはじめスタッフが、入居者に家族のように関わっている姿が微笑ましく、みんなが「ママ」「ママ」と管理者の伴さんに笑顔で声をかけ、頼りにしている様子が、とても印象的でした。

有限会社ワーカーズクラブ

グループホーム秋桜の里 管理者：伴 菜穂子

川崎区浅田 2-17-20 044-355-6373

## 広報係 の ひとりゴト

日本の医療をグローバル化しようという内容の論説を、新聞やテレビで目にします。実は当院では以前から海外協力にささやかながら、寄与しているのです。元院長の堀内医師は日本医療福祉生協連を通し、アジアの医療、災害支援に活躍しています。3年ほど前には病院に中国人の留学生の研修を受け入れました。やがて来たる中国の高齢化社会では当院で学んだことを活かしていただきたいと思えます。その前年にはイラクからの医師の見学研修を受け入れた経験もあります。現在は祖国で活躍中とのことです。

今年も地域に根を張りながらも、グローバルな視点も持っていきたいものです。地域の皆様、本年もよろしくお願い致します。

広報委員長（副院長） 安西 光洋

